

生徒の学力高い/国公立に強い

**鉄緑会** 生徒数 約7200人  
(中学生含む)  
国公立合格者数 477人(75)  
私立合格者数 239人超  
現役生授業料 約80万円

現役生のみ。指定校制あり。3分の2以上が医学部志望。東大理Ⅲ合格者の6割超がこ出身

撮影:梅谷秀司



麹町にある医学部進学  
の専門校舎

## 2大予備校

**河合塾** 生徒数 9万人  
国公立合格者数 — 私立合格者数 —  
浪人生授業料 72.5万円(トップ国立医進)  
現役生授業料 67.6万円

駿台と並び、難関国公立医学部の実績で圧倒的。全国最大の医進模試を実施。16年の公表合格実績は国公立1762人、私立2185人(補欠、受験生1人での複数合格含む)

**駿台予備学校** 生徒数 —  
国公立合格者数 — 私立合格者数 —  
浪人生授業料 82.5万円  
(スーパー国公立大医系コース)

難関国公立医学部に強い最大手。市谷校舎は医学部受験生の聖地と呼ばれる。16年の公表合格実績は国公立2035人、私立2639人(補欠、受験生1人での複数合格含む)

“聖地”市谷校舎は今春  
全面改装された



撮影:今村雄

## 独自調査で見た

# 医学部予備校の勢力図

こんなに違う!  
大手と  
医専予備校

(出所)取材、調査票を基  
に本誌作成

大手予備校	vs.	医学部専門予備校
70万~80万円	年間の授業料	100万~800万円
ハイレベルな現役生	主な生徒層	医者の子どもの浪人生
安定	講師の質	予備校によって玉石混濁
50人程度の集団講義	主な授業構成	個別~少人数指導
国公立大学、私立御三家	主な目標大学	中堅~下位の私立医大

昨年、御茶ノ水に東京  
校を開校した

医学部受験  
**富士学院**  
東京校

## 医学部専門予備校

**メディカルラボ**

生徒数 982人

国公立合格者数 61人(6) 私立合格者数 331人(54)

浪人生授業料 約700万~800万円 現役生授業料 約300万円

名古屋発祥の医専大手。一対一の個別指導。本部が講師を派遣する特殊なFC(フランチャイズ)方式で拡大



2006年に設立された名古屋駅前の本校

**北九州予備校**

生徒数全国3位。医歯薬獣専門の「Felix」を2校展開

**TOMAS**

12年に「メディックTOMAS」設立。一対一の個別指導に強み

**武田塾**

自習のみの武田塾が15年にメディカル業態を開発。FCで現在2校。浪人生の年間授業料は600万円

医学部  
専門コース  
を作り参入

**レクサス教育センター**

生徒数 85人(65人)

国公立合格者数 2人(0) 私立合格者数 31人(▲2)

浪人生授業料 210万~500万円

現役生授業料 180万~430万円

夜間の個別指導など「完全拘束体制」と呼ばれる指導の厳しさに定評

**慶応進学会フロンティア**

生徒数 64人(53人)

国公立合格者数 3人(1) 私立合格者数 28人(▲1)

浪人生授業料 195万~480万円

現役生授業料 130万円~

「偏差値40からの医学部合格」を掲げる

**富士学院**

生徒数 346人(340人)

国公立合格者数 17人(7) 私立合格者数 117人(20)

浪人生授業料 約190万~360万円 現役生授業料 約100万円

福岡発祥の医専大手で西日本中心に展開。面接指導など生徒に手厚い

**メルリックス学院**

生徒数 252人(117人)

国公立合格者数 1人(1) 私立合格者数 47人(▲4)

浪人生授業料 210万~504万円 現役生授業料 97万円

都内の有力医歯専門。情報収集に強く、私立医大の推薦入試でトップ実績

**YMS**

生徒数 147人

国公立合格者数 7人(2) 私立合格者数 91人(0)

浪人生授業料 約300万円 現役生授業料 約150万円

都内の有力医専。入学希望者に面接付きの選抜試験を実施

**メビオ**

生徒数 130人(120人)

国公立合格者数 6人(2) 私立合格者数 60人(▲7)

授業料 —

1980年創立。大阪の有力医専。1コマ3時間半の集中授業に特徴

生徒の学力低い/私立に強い

**武田塾MEDICAL**

名古屋への進出を  
検討している

(注)各校への調査票、取材を基に本誌作成。主な予備校に調査票を送付し、期限までに回答があった予備校を掲載。合格者数は2017年の医学部・医学科の合格実績。( )内は前年比での増減。▲はマイナス。最終試験合格者数ベースで、受験生1人での複数合格含まず。生徒数は現役、浪人含む全生徒数で、( )内は医学部専門コースの人数。授業料は入学金、夏期講習など講習費を含む年間のモデル授業料。非開示項目は一で表記

授業料が低額/生徒が自主的に学ぶ

授業料が高め/生徒をしっかり指導

の派遣もすべて本部が行っている(メディカルラボ)。一対一の個別指導が売りだ。福岡発祥の富士学院も昨年、東京に進出するなど勢いに乗っている。都内のメルリックス学院は私立大の推薦入学でトップなど、各校に特色がある。

高い人気が続く医学部受験は、業界にとって魅力的な市場だ。自習のみの武田塾など既存の予備校も次々参入している。「武田塾メデイカルは武田塾を磨き上げた最強の業態。浪人生で600万円の授業料は高いと思うかもしれないが、HPにノウハウをすべて公開しているの自分でできれば入らなくてもいい」と、武田塾を運営するAverの林尚弘社長は話す。

予備校を選ぶ際に注意したいのが、いわゆる悪徳予備校の存在だ。医学部受験をうたう予備校は都内だけで100以上あるといわれ、入れ替わりが激しい。中には、事前に説明のない追加講習で高額な授業料を次々に請求するなど悪質な例がある。「泣いて駆け込んでくる親と生徒は後を絶たない」(富士学院の坂本友寛学院長)。

ちなみに本誌が送ったアンケートの回収率は半分以下。それだけ、本当の数字を答えたくない予備校が多かったということだろう。

(本誌・石坂友貴、秦卓弥)

図を作成した(上図)。

一目でわかるとおり、医学部志望の学生が入る予備校は、難関大に強い大手予備校と、中堅以下の私立大に強い医学部専門(医専)予備校ですみ分けられている。

駿台予備学校、河合塾の2大手予備校は、本誌アンケートで合格実績はいずれも「公表値と異なる数字を出す」と混乱を招くため」と非開示。私立大の公表実績値は複数合格を含んでいるため実態が見えづらいが、併願ができない国公立大実績は、駿台が2035人、河合塾が1762人(いずれも16年)。国公立大医学部の定員が約5800人であることを考えれば、実質寡占に近い。

一方、医専予備校は、私立医大の合格率が高いのが最大の特徴。「私立の入試問題は大学ごとにクセがあり個別の対策が必要」(メルリックス学院の田尻友久学院長)。授業料は100万~800万円と、大手予備校と比べると高いが、その分手厚く指導してくれる。大手予備校の講義にはついていけない、個別~少人数でしっかり管理してほしいという生徒に向く。

医専で急拡大しているのが、フランチャイズ(FC)で展開する名古屋発祥のメディカルラボだ。「ノウハウ提供だけでなく講師や職員

医学生をつぶやき 大阪のメビオで浪人中に寮生活をした。合格率も費用も高い